

# 断酒会会員に共通する治療・生活環境の特徴 —これからの地域支援に求められる視点—



西元祥雄<sup>1)</sup>, 渡辺大貴<sup>1)</sup>, 越智あゆみ<sup>2)</sup>, 甲田実<sup>3)</sup>

1) 特定医療法人大慈会 三原病院 2) 県立広島大学 保健福祉学部人間福祉学科 3) 三原断酒友の会

## ●研究の目的

本研究では、断酒会の会員を対象とした調査結果をもとに、自助グループへのアクセスを高める要因を明らかにする。

## 背景

アルコール依存症の回復過程では、断酒会やアルコールクス・アノニマス (AA) などの自助グループを利用する人の経過が良いことが知られている。しかし、会員の高齢化や会員数減少が課題となっている団体もあり、現在あるグループも将来的に活用しにくくなるのが危惧されている。

## ●広島県内の断酒会データ

県内 11 団体  
本人会員 324 人 (調査時点)  
・会員数 平均 29.5 人 (中央値 14)  
・家族会員 平均 17.5 人 (中央値 4)

週 1 ~ 2 回の例会に加えて、酒害相談会や昼例会などを行う。

医療機関や行政機関の職員が定期的に参加する団体は 43%。

## ●調査の概要

広島県内の断酒会 (全 11 団体) に所属する本人会員 324 人を対象に、質問紙調査を実施した。AA はメンバーに関する調査を受けない方針であるため対象外とした。調査時期は 2017 年 3 月、回収数は 203 件 (回収率 62.7%) であった。

## ●倫理的配慮

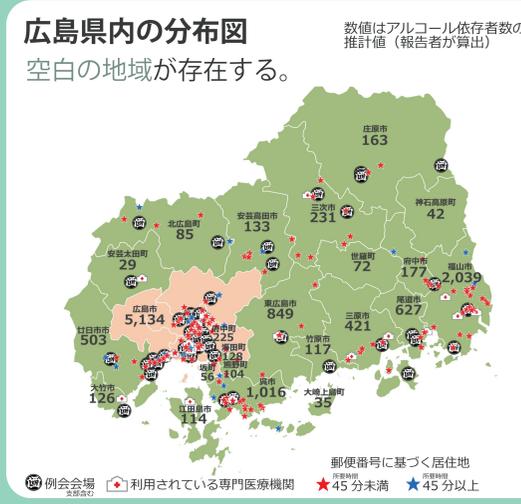
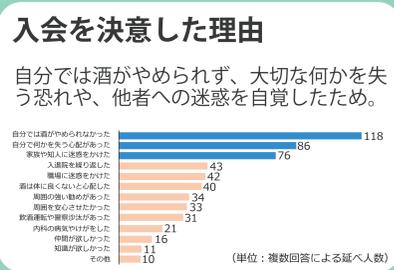
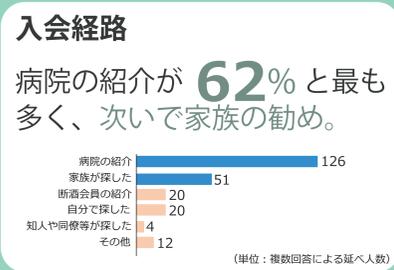
三原病院倫理委員会の承認を得て調査を実施した。個人情報取り扱いに関しては、依頼文書で説明した。

## ●結果

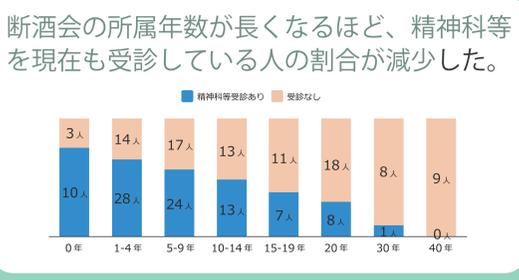
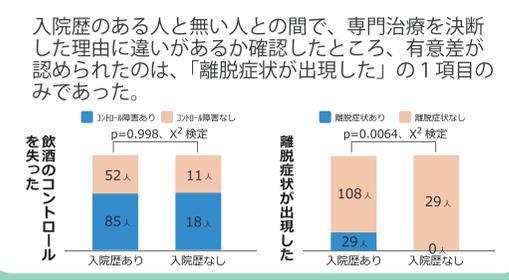
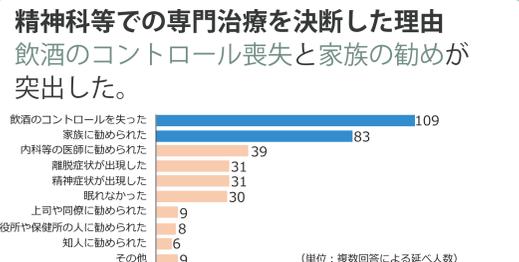
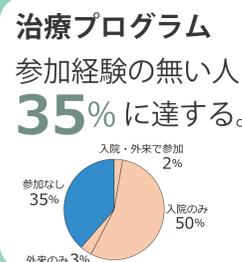
### 入会状況



### 環境要因



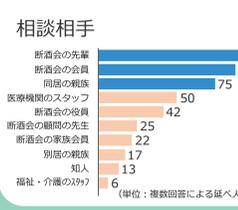
### 治療との関連



アルコール関連の最新情報は断酒会から得る人がほとんど。福祉・介護サービスを利用している人は 1 割程度。



76% には同居者がいて、相談相手は同居の親族と断酒会の会員が多く挙げられた。



## ●考察 | これからの地域支援に向けて

### 断酒会と顔の見える関係性を築く

病院からの働きかけで断酒会につながる人が多いことから、医療機関は自助グループと相互理解を深め、その橋渡しを担っていく役割が求められる。入会をためらう人には一緒に同行するなど、参加しやすさを高める支援が大切である。

### 柔軟な姿勢で、支援につながりにくい人のことを含めて考える

例会出席を週 1 回以上継続する会員が多く、交通手段や所要時間といった環境要因の与える影響も大きいことが明らかとなった。

一方で、相談相手がない単身者や、運転免許証の失効などの影響を受けて、断酒会につながりにくい人が潜在する可能性も示唆された。アルコール依存症は多くの重要なもの (健康、家族、仕事、社会的な信頼関係など) を「失う病」といわれるが、【断酒会の利用継続に必要な条件】さえも失う場合がある実態を確認した。

### 地域の特性を把握する

居住エリアにもアセスメントの目を向け、自助グループに通いやすい手段を検討したり、社会資源の無い地域には出向いて開拓していく意識が、支援者と断酒会に共通した課題である。



今後、各地域でも詳細な分析が進み、都道府県アルコール健康障害対策推進計画に反映されていくことを期待する。